

日中友好新聞

No. 575

2009/6/5


日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0033 東京都文京区湯島1-1-1
TEL:03-3821-1111

日中友好協会
岡山支部
〒700-8236 岡山市東区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号119番 01250-0-3935

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8014 倉敷市遊鳥中央1-8-1 (宮地方)
TEL/FAX:0861445-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhong.web.infoseek.co.jp
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



「映画と漫画に歴史と現代が」

倉敷支部 大森久雄

石子順さんが、5月16日、映画・漫画を通じていまの中国をどう見るかを話された。

開口、戦後の中国映画復興に旧満州映画協会の技術者の果たした役割が大きいと言われる。内田吐夢を思い出す。岡山出身の監督。満映理事長、甘粕正彦の自死にかけつけ、以後中国に留まる。

戦前、中国に「漫画」を定着させた豊子愷は、日本留学中、竹久夢二や落谷紅児らの抒情画や漫画に影響された。日中友好のためものだ。

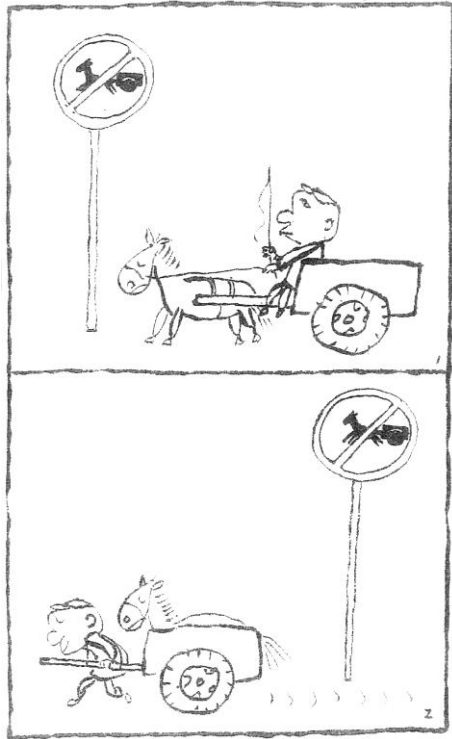
中国国歌は、夏衍の映画「風雲児女」の主題歌「義勇軍行進曲」である。夏衍は日本に亡命し、作曲家聶耳もその曲を日本

で完成さす。

戦後、「白毛女」など中国映画の上映は日中友好協会が始めた。数々のエピソードで日中交流が語られた。

いま上映中の作品では、「戦場のレクイエム」花の生涯―梅蘭芳―、ワッドクリフ パートII―四川のうた―を取り上げ特色に触れられた。

中国漫画50年への資料では10作品が示された。中国ではひとこま漫画が中心で、生活の哀感を描いており、政治批判は少ないようだ。その点では、主に政策あり、下に対策あり」が注目された。



徐鹏飞 《上有政策 下有对策》
上に政策あり 下に対策あり



石子順講演会の感想から

日本と中国がこんなに近かったと感じたことがあります。幼いと言つてもよい頃、三國志を読み、陳臣しゆん(舜臣?)の読み、今、横山光輝の三國志を読んでいます。レッド・クリフも見ました。感動しましたが、今日ほど近く感じたことはありません。

日中文化講座を聞いたのは、はじめてですが、近くて遠い国である中国の映画、漫画の点からの歴史をうかがえたのは有意義でした。

中国の映画、漫画に関しての内容はとても詳しく話されとても興味深く聞かせて頂きました。ワッド・クリフは見ましたが口はまだです。三國志に興味の無い者でもけっこう楽しめました。本当に今中国の映画は良い物が増えてきていますね。

内山完造先生没後50周年記念事業に参加

内山完造先生誕の地に日中の支部設立を!

5月17日、井原市芳井生涯学習センターで内山完造先生没後50周年記念事業が、記念事業実行委員会」によって開催され、市民や中国からの留学生ら約600人が参加しました。

日中倉敷支部から大森支部長、栗本理事長、宮地事務局長ら十数人が、岡山支部からは、竹内理事長、小林事務局長が参加しました。

式典や講演内容については、大森支部長の報告をご覧ください。

この場で、日中西部支部(仮称)の結成について、井原市の森本市会議員を囲んで話し合いました。今後結成に向けて、井原市で日中主催の映画会か講演会を開催し、参加者を中心に支部結成をめざすことにしました。

森本市議から、栗本さんを通じて、笠岡の原田市議にも働きかけていただき、井笠ないしは、西備支部として、結成していくのがよいのではと、要望が出されました。新たな支部結成の動きが出てきました。



「淡々と情愛深く」

倉敷支部 大森久雄

淡々とした語り口。簡潔、明快な展開。時、所、人物の具体例が確かだ。魯迅没後の内山にも触れ、その最後にも言及された。語り全体を通じ、父魯迅の敬意と内山夫妻への感謝の気持ちがよく伝わり、さわやかだった。実質は30分足らずがあふれていた。開会の式典が仰仰しく長すぎたので、周さんのお話しがいつそう際立った。

わたしは、魯迅の5作品を訳本にしている。周さんのご署名がいただければと動いたけれど果たせなかった。

さあれ、その警咳に接し、わたしの魯迅世界は豊かになったようだ。

内山完造先生没後50周年記念事業が、5月17日、井原市で開かれた。内山と親交のあった魯迅の子、周海嬰さんが、わが父魯迅と内山完造」と題し、記念講演をされた。長身瘦軀、総白髪。内山先生の故郷を再び訪問できた口を開き、1927年(昭和2)10月12日午後、魯迅は内山書店を初めて訪れた、と続けられた。そのとき、内山は留守だった。やがて親交が深まる。家族一体の交際。周さん自身の病気への医師の手配、見舞。国民党による指名手配、白色テロからの避難、保護などなど。



左から 大森、森本、宮地、栗本、竹内さんです

日本語教室

ボランティア説明会

—高島公民館で—

5月25日、中国帰国者の日本語教室ボランティア説明会が、高島公民館でありました。

この会は、公民館が7月より火曜日に日本語教室を開設するための準備会で、ボランティア希望者6名と日本語教室・岡山の会から3名及び公民館の職員1名の10人が参加しました。

最初に私の方から、日本語教室のあゆみと、中国帰国者の日本語教室・岡山の会及び岡山県連絡協議会との組織と役員について説明しました。

参加者から、以前中国語を少し勉強したが、日本語を教える

ことについての不安や現在行われている教室の様子について知りたいとの発言がありました。

これに対して貝吹さんが、自分の体験をまじえて、楽しくととを大切にしていると話ししました。また、私は、是非長岡の日本語教室(水)を見学してほしいと要請しました。

最後に、次回の準備会を6月16日に高島公民館で開くことを決めて帰りました。

小林軍治

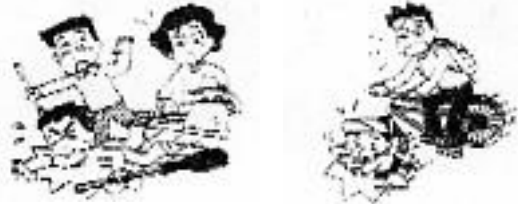
今年もボランティア活動保険に加入しました

日中友好協会岡山支部は、全国社会福祉協議会のボランティア保険に入っています。2010年3月末まで、34人を登録しました。

支部理事、中国語講師、日本語教室講師、友好新聞発送係の皆さんです。

それぞれの活動の場への往復の事故、ボランティア活動の場(加害、被害とも)で医療を受けた時は、すぐ領収書を添えて遠慮なく申し出てください。

例



日本語教室・岡山の会 和気「藤棚」で校外学習

5月13日、中国帰国者の日本語教室・岡山の会は、校外学習として和気町「藤棚」の見物に出かけました。

今回は、高杉・篠原夫妻、益田夫妻とお孫さんなど受講者が12名及び講師は、赤木夫妻をはじめ8名の計20名が参加しました。



藤の花は散っていましたが、新緑の美しい五月晴れのさわやかな日でした。食事の後約40分間藤棚を散策しました。益田さんのお孫さんの一挙手一投足が、参加者の笑いを誘い、楽しい一時を過ごしました。篠原明男さんは、中国の北京から送られた藤の花についての説明をメモしていました。

総社の日本語教室

校外で楽しい交流・研修

総社の日本語教室では5月の連休が明けた8日、足守の近水公園と足守プラザを訪ね、教室では得られない楽しい交流・研修をしました。

一行は教室の昼班のメンバーに加えて高見さんの奥さん、赤澤さんのご主人の参加があり総勢10名。

以前足守に住んでいた講師の高階さんの案内で、近水公園とその周辺を散策した後公園で昼食。そして元小学校教師の平井講師が物語「桃太郎」を情感をこめて朗読、皆が聞き入りました。さらに「桃太郎」故郷などの唱歌から「北国の春」へと

合唱がはずみました。

続いて場所を体験工房「足守プラザ」に移動、2時間余、土ひ



ねりに熱中しました。皆、目の色を変え、時には先生の援助を受けオリジナル品を仕上げました。作品は釉薬をつけて焼き上げ2カ月後に出来上がる予定。楽しみです。



た。これまで同様に、どこへいっても研究熱心な勉強家です。講師6台の車で移動しましたが、車中では、日本語・中国語で楽しく会話も弾みました。今回は、マイクバスで少し遠い所へいっては、との声も聞かれませんでした。

小林軍治

平和の波2009おかやま

6月14日(日)

① 反戦・平和・名作の集い

② 雲ながるる果てに」 10時30分

13時30分、参加費無料 主催：平和の波おかやま実行委員会

6月20日(土)

戦争遺跡バスツアー

関西高校(武器庫跡)、岡山工業高校(旧海軍被服廠倉庫)、春日神社(焼け跡を残す玉垣)など、 13時・岡山空襲平和資料館集合、 参加費：500円 主催：岡山の戦争と戦災を記録する会

6月22日(月)〜7月20日

(日・祝) (予定)

第11回平和七夕まつり

駅前商店街・表町商店街に折り鶴を主催：平和の波おかやま実行委員会

次回の新聞発送作業は 6月11日(木)午後1時半〜 民主会館2階で行います。 前回お手伝いくださった方です。

和 内 井 林 内 井 小 竹 竹 坪